

公開学習会 & まちづくり市民会議第17回総会

福島第一原発事故は日本の社会に大きな問題を投げかけています。原子力発電の「安全神話」は崩れ、現在も福島第一原子力発電所の危機が続いています。そのため、原子力発電にたよらずに、自然エネルギーへの転換を急速に進めようとの声が高まっています。

まちづくり市民会議は、5月28日に諸団体との共催で「原発を考える」学習

会を開催しましたが、まちづくり市民会議の総会に合わせて、「再生可能エネルギーの政治経済学」(東洋経済新報社)などの環境経済学で知られた大島堅一教授を招いて公開学習会を開催します。

どなたでもご参加できます。多くの方のご参加をよびかけます。

【公開学習会】

「福島原発事故と今後の課題」(仮題)

講師：大島堅一氏(立命館大学教授)

大島堅一氏：1967年福井県生まれ。立命館大学国際関係学部教授。専門は環境経済学、環境・エネルギー政策論。著書に「再生可能エネルギーの政治経済学」(東京経済新報社)など。

【二部 まちづくり市民会議第17回総会】

まちづくり市民会議は、この1年あまり梅小路公園への水族館建設問題、嵐山での乱開発問題、岡崎再整備問題などに関するとりくみをしてきました。この1年間のとりくみをふまえ、住民・市民運動の交流と今後のとりくみについて意見交換をします。多くの方のご参加をよびかけます。

とき 6月23日(木)

午後6時30分～

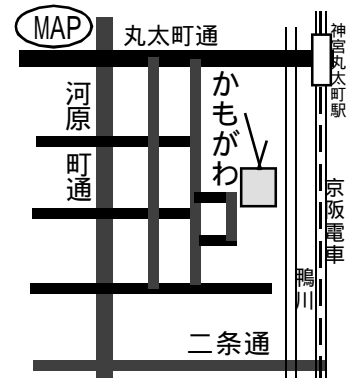
ところ かもがわ2階大会議室

(中京区土手町夷川上る末丸町284 075-256-1307)

総会も含めてどなたでもご参加できます

京都・まちづくり市民会議

京都・まちづくり市民会議は1992年に結成された市民団体です。京都市内のまちこわしにストップをかけ、歴史都市京都の包括的保全と市民主体の住み続けられるまちづくりの実現をめざしてきました。景観保全のためのとりくみは、2007年9月から施行された新景観条例に結実しました。最近では、この新景観政策にもとづき、安易な特例許可を許さないとりくみや、梅小路水族館建設問題、嵐山での乱開発問題、岡崎公園の再整備問題などについての学習会やシンポジウム、さまざまな行動などにとりくんできました。また、災害とまちづくりについてもとりくみ提言なども発表してきました。現在まちづくり市民会議には、住民運動にかかわってこられた団体や個人、諸団体のみなさんで構成しています。



京都・まちづくり市民会議

(京都市中京区壬生仙念町30-2ラポール京都5階
075-801-2308 Fax 075-812-4149)